



白井社宅の屋さがり。向こうの家並みの上に、鯉のぼりが泳いでいた。

五月の暦

さつき

五月の暦

1日　メーデー。日本赤十字社創立記念日。

2日　八十八夜。郵便貯金創業記念日。

3日　憲法記念日（明治憲法にかり、日本国憲法施行）。

4日　国民体育デー。

5日　こどもの日（端午の節句）
児童憲章制定宣言（一九五一―昭和二十九年）。立夏この日特定休日（三池）。

8日　世界赤十字デー。

10日　愛鳥週間（十六日まで）。
母の日。

23日　皇族特権廃止（一九四六―昭和三十四年）。

30日　消費者の日（消費者保護基本法が制定されてから十二年目）。
年目。

×

半ばを中心に高気圧に覆われ晴れる日が多いが、一時低気圧が来達し、風雨の強い日もありそう。

下旬は、南岸で天気がぐずぐず。
(以上、連合通信による)
五月はゴールデンウィークにはじまり旅行やレクリエーションのシーズン。かんじんなことは、行楽疲れを避けること。
小さな子ども連れのときは、常に十分に注意すること。やがてくる梅雨にそなえて。

よく見ながら、集金の成功を目ざして支援をはかる。
四、参議院議員選挙の取り組みについて
三池労組とも推薦している全国区「あぐね 地方区」小柳(福岡県)、魚返(うがえり)正臣(熊本県)三候補の当選をめざしがんばっています。

俳句 子どもの入学に寄せる

港務指導部 竹泉

セーラー服踊るスカートに足軽く
早や歳月過ぎて我が子のすがた哉
空晴れて弾む心に小鳥舞う

大地評、年末カンパを配分

昨年末、大牟田地評が行なった年末助け合いカンパ(組合員一人五十円)は、あけぼの学園の三万円など十一関係施設や団体へ配分(合計六十一万円)されたことが伝えられました。報告し、改めてご協力を感謝します。 組合

世は物価高騰で地獄

三井はドレイ支配夢見るか

三池主婦会が春闘のなかで、無謀な物価値上げ政策をとり続ける政府や、労働者の切実な要求に耳をさそうとなしな資本などに対し、主婦会員に呼びかけ、ハガキによる抗議行動を起こしたところ、はじけるように抗議のハガキが打ち続いた。次は、それらのハガキの実例である。

総理大臣・大平正芳殿

銀の公定歩合引き上げに伴う最近の物価高騰は私達労働者にとつて恐怖であり、地獄である。光熱費、公共料金の国鉄・NHK・国公立高学校授業料に酒・タバコ・調味料と数限りない。政府は物価抑制政策と庶民の生活安定をどのように考えているのか。一日も早く物価抑制と庶民の生活安定(賃金を物価指数より高く)を、誠意をもって考えてほしい。物価値上げに抗議する。

通産大臣・佐々木義武殿

一九八〇年代は、何んぞ恐ろしい値上げ時代なのでしょう。か。公共料金など、平均して二

石炭協会会長・有吉新吾殿

物価高に苦しむ今日この頃、資本、特に三井資本は私達のさやかな要求にも耳をささないのですか。大黒柱の勤者が居なくては、資本がどんなに太っ

今後の活動きめる

分会交流座談会など 三池主婦会

三池炭鉱主婦会は、四月二十四日三川指導部で第五回中央分会長会議を開催し、春闘情勢をめぐる報告を受けたあと、春闘ほか当面させまつている諸活動への次の取り組み方を確認いたしました。

一、春闘の取り組み方
三池主婦会としては、ハガキをもって要請・抗議行動を起こすこと。(別項記事参照を)

右ハガキの差し出し先は、次の通りとする。

大平正芳総理大臣殿(東京都千代田区永田町二二二一、総理大臣官邸)

佐々木義武通産大臣殿(東京都千代田区霞ヶ関一三三十一通商産業省)

有吉新吾会長殿(東京都千代田区有楽町一八一、日比谷パークビル三階、日本石炭協会)

二、主婦会交流座談会の取り組み方
各分会単位の交流座談会を開催(小川開ア・トほか三十ヶ所、きたる五月十七日から)

し、春闘はもちろん、近づく参院議員選挙など、あらゆる問題について主婦会員の声を汲みあげ、過去半年間の活動の中間

寄せられた高い評価

杉本炭鉱詩集

年表を繰ると一九五九年九月、石炭協会十一万人首切り計画を発表
十月、希望退職募集を強行
十一月、三池の人員整理は数より質と言明
十二月八日、勧告状一括返上
十二月十一日、二九七名の指名解雇発表あり
冬のことぶれのなかで三池闘争の幕はあいた

(中略)
ホッパもすでに面影を失って長いがいせんとしてたつた一年間のあいだ
三池で七人の男が命を埋め

三池の職場詩人——杉本一男さん(45歳、仕練員)の著「炭鉱詩集」のなかの「冬の回想」の作品だが、各方面から高い評価が寄せられている。読んでいない人は、この際ぜひ一読してほしい。青磁社発行で千円。いくらが、編集部

小崎の手もとに残っています。

三池の職場詩人——杉本一男さん(45歳、仕練員)の著「炭鉱詩集」のなかの「冬の回想」の作品だが、各方面から高い評価が寄せられている。読んでいない人は、この際ぜひ一読してほしい。青磁社発行で千円。いくらが、編集部

小崎の手もとに残っています。

三池で七人の男が命を埋め

三池で七人の男が命を埋め

三池で七人の男が命を埋め

三池で七人の男が命を埋め

三池で七人の男が命を埋め